

第87回 日本感染症学会西日本地方会学術集会  
第60回 日本感染症学会中日本地方会学術集会  
第65回 日本化学療法学会西日本支部総会

イブニングセミナー1

# 今こそ見直そう！ 結核対策！

～結核発病高リスク症例の  
潜在性結核感染症診療について～

日時：2017年**10月26日(木)** 17:10～18:00

会場：第2会場(長崎ブリックホール3F 国際会議場)

司会

清田 浩 先生

東京慈恵会医科大学  
葛飾医療センター 泌尿器科

演者

小林 信明 先生

横浜市立大学附属  
市民総合医療センター  
呼吸器病センター内科

共催

第87回 日本感染症学会西日本地方会学術集会  
第60回 日本感染症学会中日本地方会学術集会  
第65回 日本化学療法学会西日本地方会学術集会

オックスフォード・イムノテック株式会社

# 今こそ見直そう！結核対策！

～結核発病高リスク症例の潜在性結核感染症診療について～

WHOは先進国および結核中蔓延国の結核感染症の撲滅を目指して、活動性結核の適切な治療、管理だけでなく、結核発症リスクの高い潜在性結核感染症 (latent tuberculosis infection: LTBI) の治療が重要であると指摘している。本邦においても、日本結核病学会予防委員会・治療委員会より潜在性結核感染症治療指針が示されており、医療現場におけるLTBIに対する積極的な取り組みは、本邦の結核蔓延状況を改善する有用な手段となる。

LTBIとは宿主の中で結核が潜在して感染している状態であり、免疫力の低下や加齢などを契機として活動性結核を発症し得る。LTBI治療の対象は、無症状であるが新規感染が疑われる症例（接触者健診陽性例など）と免疫不全を伴う病態であり、従来の化学予防のエビデンスに基づいて、より積極的に治療を行う。

LTBIの標準的な治療はINHの6ヶ月または9ヶ月内服であるが、最適な治療期間やハイリスク症例における治療方法、治療中断時の対応などは議論の余地がある。また、活動性結核の治療と比して使用する薬剤数は少ないとはいえ、実際には肝障害や皮疹、末梢神経障害などの副作用はしばしば経験する。LTBI治療の対象となる患者は、結核に関しては無症状であり治療による効果が自覚しづらい中で、長期間の内服を副作用に注意しながら継続する必要があり、治療前後の精神的なケアを含むサポートが求められる。

LTBIの標準的な診断法の一つはツベルクリン反応であるが、本邦においてはBCG定期接種や少なくない非結核性抗酸菌感染症による偽陽性が問題となる。試験管内でヒト型結核菌特異抗原の刺激によるIFN-gamma産生を検出するIGRA(interferon-gamma release assay)は、BCG接種の影響を受けない結核診断の有効な補助診断法であり、保険適用となっている。IGRAには試験管内のIFN-gamma濃度をELISA法で測定するQFT-GITと、抗原特異的な反応を示したTリンパ球数をELISPOT法により測定するT-SPOT<sup>®</sup> TBがある。T-SPOT<sup>®</sup> TBは検査に際して用いるリンパ球数を揃えるため、末梢血中のリンパ球濃度の違いに影響されない特徴があり、宿主の免疫状態の影響を受けにくいとする報告が多い。

IGRAはLTBI診断において有用な検査であり、欧米のガイドラインにも記載があるが、適応症例や結果の解釈などに若干の違いが認められ注意が必要である。また、結核感染後に陽転化する時期や感染が鎮静化した際の陰性化に要する期間が不明であること、再現性に問題があるとの指摘があること、判定不能例の対応などの解決すべき課題がある。

先の治療指針の中で、LTBIと診断したら積極的に治療の検討を行う治療勧告レベルAのリスク要因には、生物学的製剤の使用、慢性腎不全による血液透析、臓器移植、HIV/AIDSなどが挙げられている。これらの中で、生物学的製剤使用時のLTBI治療はリウマチ専門医を中心にガイドラインが策定され積極的に行われており、既に多くの結核発症を予防していると考えられる。一方で、国内の慢性腎不全による血液透析症例は人口比で先進国中最多であり、また患者の高齢化も顕著であるが、結核の集団感染事例が度々報告されるハイリスク集団であり一層の対策が必要と思われる。また、リスク要因が重複した場合にLTBI治療の検討を行うレベルBには、ステロイド剤や免疫抑制剤使用、喫煙者、低体重など、どの診療科でも遭遇するリスク因子が挙げられており、各診療科の協力だけでなく、医療スタッフの教育も重要と考えられる。

本セミナーでは、結核対策におけるLTBI診療の重要性、LTBI診療の実際、ハイリスク症例の考え方、LTBI診断におけるT-SPOT<sup>®</sup> TBを中心としたIGRAの有用性と問題点などについて、自験例を交えて概説する。

## 交通のご案内

〈フロア地図〉

### 長崎ブリックホール

〒852-8104 長崎市茂里町2-38



〈アクセス〉

JR

浦上駅から徒歩5分

路面電車・バス

茂里町停留所下車徒歩3分